

令和 6 年度 社会福祉法人至誠会事業計画

＜はじめに＞

令和 5 年 5 月、新型コロナウイルス感染症は感染症 5 類に下がり、インフルエンザ並みの扱いとなった。しかし、介護の現場では気の抜けない状態が続いている。そんな中でも職員はよく頑張り、入居部門、デイサービス部門ともにその務めをよく果たし、地域貢献ができています。

＜至誠会を取り巻く現状＞

- ① 介護サービス利用者のさらなる超高齢化で介護内容が重度化している
- ② 健康寿命の延伸で介護者も高齢化し介護し切れなくなる傾向がみられ、施設入所者の増加や病院入院者の増加となっている
- ③ 世界情勢はいまだに安定せず、光熱費や物価の値上がりにつながったままである

＜至誠会内部の現状と課題＞

- ① 諸経費と物価の高騰により支出が増加している
- ② 給食の委託費が上がった
- ③ デイサービス利用者の増加はない
- ④ 入居者の超高齢化と重度化が進んでいる

＜今年度の事業目標＞

- ① 人件費比率を下げ、健全経営を目指す
- ② 方向性として、比較的介護度の軽い方の入居を優先させる
- ③ 今まで以上に家族負担を軽減するようなデイサービス運営に努める
- ④ 従来通り施設看取りを進める

理事長 三輪 誠

(1) 法人本部事業計画

- ① 基本理念
- ② 実践目標
- ③ 組織図
- ④ 委員会構成
- ⑤ 理事会・評議員会・監事
- ⑥ 行事・研修会・各種委員会など
- ⑦ ICT化の推進
- ⑧ ケアハウス事業と通所介護事業の交流推進
- ⑨ 地域貢献活動
- ⑩ 防災の取り組み
- ⑪ 研修計画
- ⑫ 広報活動
- ⑬ 志太会との連携
- ⑭ ケアハウス事業計画
- ⑮ 通所介護事業計画

「地域を支える、地域で看取る」

人は住み慣れた地域で、なじみの方々とともに最期まで暮らし続けることを望みます。三輪医院グループはそのために最大限の努力をします。

「ノーマライゼーション」

人は認知症などの障害を有しても、普通の暮らし、平穏な暮らしを営む権利があります。至誠会はその権利が損なわれないように最大限の援助をします。

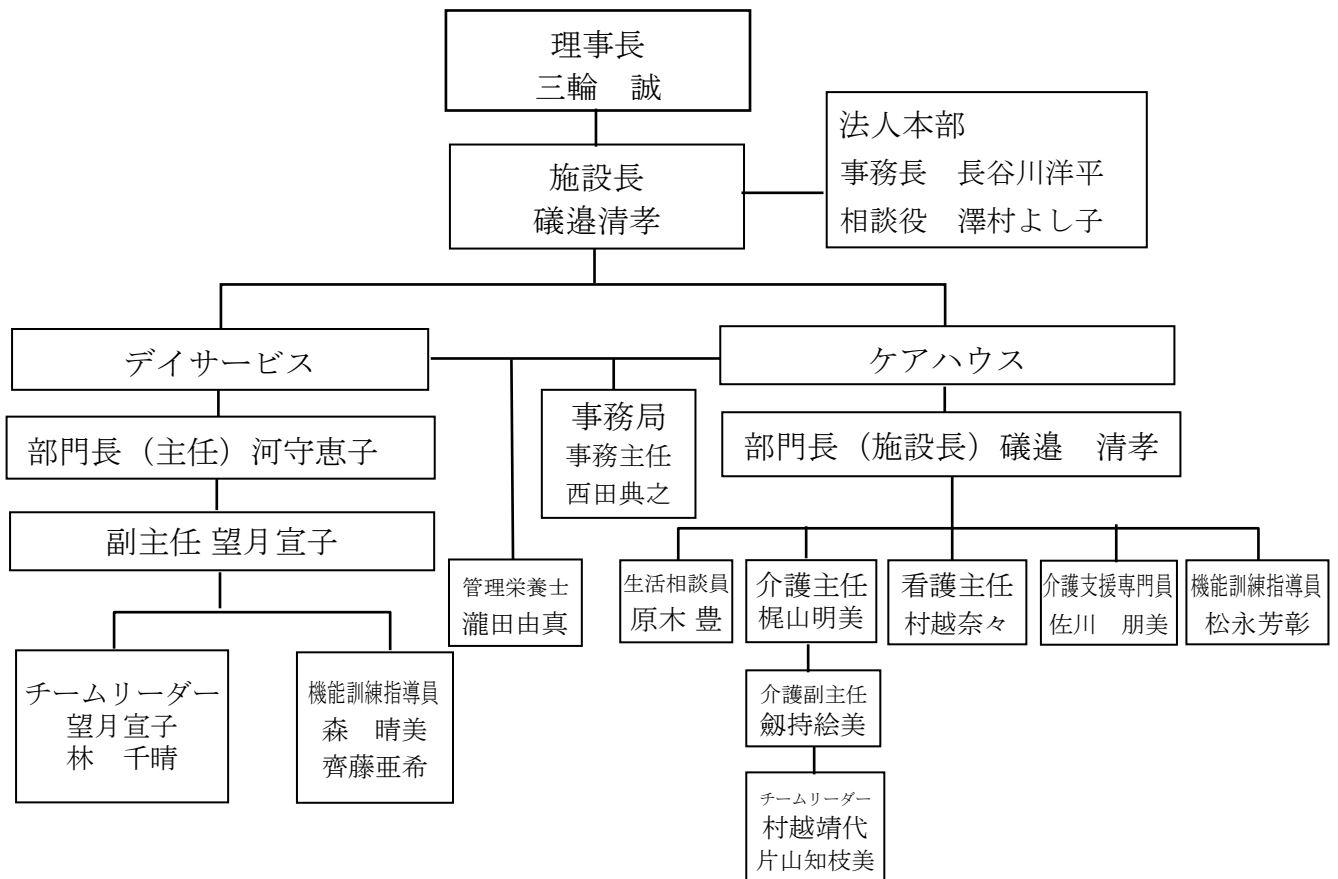
実践目標

ノーマライゼーションの理念に基づいて、医師が常駐しているという利点と、地域出身の利用者が多いという特徴を生かし、以下の3つの喜びを提供します。

- (1) 健康である喜び
- (2) 尊重される喜び
- (3) 動ける喜び

- * 健康管理と苦痛の除去(病気の早期発見、早期治療)
- * パーソンセンタードケアの実践(個性の尊重、人生の評価)
- * リハビリの実践(生活援助すべてをリハビリと考え、実践)

組織図



委員会構成

委員会	委員名
防災委員会	礒邊 原木 河守 柳原 瀧田 片山 前嶋 岩堀 増田(和) 齊藤
給食委員会	礒邊 河守 瀧田 村越(靖) 小沢
感染予防委員会	礒邊 河守 渡辺 村越(奈) 林 渡邊 油井 瀧田
事故対策委員会 (身体拘束・虐待含む)	礒邊 河守 武藤 杉本 増田(一) 望月
企画会議 (志太会・至誠会合同委員会)	長谷川 川村 小沼 礒邊

理事・評議員・監事

理事長	三輪 誠	評議員	岡本 康雄
理 事	長谷川 洋平	評議員	清水 章子
理 事	西田 典之	評議員	蒨田 延雄
理 事	澤村 よし子	評議員	萩原 俊正
理 事	河守 恵子	評議員	山口 良成
理 事	礒邊 清孝	評議員	大石 礼子
監 事	一ツ田 良夫	評議員	中山 與之助
監 事	平野 仁		

令和6年度 年間予定

月	法人本部	ケアハウス	デイサービス
4			12周年お祝いの会 桜・藤花見
5	監事監査 理事会（決算報告・事業報告）	防災訓練	バラ花見 新茶の会 入浴介助研修会
6	評議員会（定期総会）	運動会	
		防災訓練（水害想定避難訓練）	
7			部門内勉強会
8		七夕	七夕の会 納涼会
		防災訓練（消火訓練）	
9		敬老会	県立短期大学実習生受け入れ 敬老会 入浴介助研修会
10		秋祭り ふくし・かいご作品展	コスモス・菊花見 運動会 事故事例検討会
		総合防災訓練 感染予防講習会	
11		感染予防講習会	家族交流会 恵比寿講 紅葉見学 味噌作り
12	理事会（補正予算）	忘年会	忘年会
		防災訓練（情報伝達訓練）	
1		新年会	新年の会 部門内勉強会
2		節分の会 炊き出し訓練（けんちん汁）	節分の会 梅・河津桜花見 入浴介助研修会
3	理事会（最終補正予算・次年度予算・事業計画）	御花見 外食	木蓮花見 身体拘束・プライバシー勉強会
		防災訓練（消火訓練）	

通年実施事業

ケアハウス	デイサービス
・喫茶の時間（毎週火曜日午後） ・売店の実施（毎週金曜日午後） ・園芸クラブ（不定期）	・園児交流会・認知症ケア事例検討会 ・ケアカンファレンス・サービス担当者会議 ・クラブ活動（園芸・調理・作品・手芸・音楽・なごみ）・回想法 ・ボランティア受け入れ
事故対策委員会（身体拘束・虐待含む）・感染委員会・防災委員会・リハビリ会議・給食委員会（不定期） ユニケア岡部と合同開催：企画会議・活動交流集会	

<ICT 化の推進>

- ① 志太会と至誠会の各部署がワイズマンの「MeLL+」を活用し情報共有を密に行うことで紙媒体の削減を図りサービス提供者として質の向上を目指す。
- ② ご家族の面会、外部研修への参加、グループ法人内での会議の運営等、インターネット機能を活用した方法で継続的に実施していく
- ③ 可動式介助バー、離床センサー等、福祉機器の導入を検討し入居者、職員にとって安心、安全な環境整備に努める。
- ④ Instagram 等の SNS を活用し施設の魅力発信に努め地域の方々をはじめ多くの人たちにケアハウスみどりの風・おかべを知っていただく

<ケアハウス事業と通所介護事業の交流推進>

- ① 介護・看護職員の交流
欠員時の相互補助や交流研修を実施することで、危機管理対策機能の向上を目指す
- ② 設備面（機械浴槽・リハビリ室）における相互活用

<地域貢献活動>

- ① NPO法人「やまぼうしクラブ」が主催する地域の方を対象とした催しへの参加・支援・協力
- ② 秋祭りの開催。入居者、ご家族、地域の方を対象としたお祭りを開催する
- ③ 介護人材の育成。
学生の実習受け入れ施設として申請をしデイサービスでの実習を受け入れ介護人材育成に協力
- ④ 法人の Instagram を活用し、地域で開催されるイベントの告知や他施設の行事の宣伝、静岡県藤枝市（岡部町）の発信源になるような活動

<防災の取り組み>

- ① 水防訓練（岡部聖母保育園と連携（園児避難受け入れ想定）も図る）
- ② 地震・火災想定避難訓練（10月予定）
- ③ 消火訓練（年2回以上）参加職員を入れ替えることで同一内容の訓練を複数回実施する
- ④ 部署ごとのグループ LINE や安否コールを活用し情報伝達訓練を行う事で緊急時に備える
- ⑤ 非常用自家発電機の設置。毎月行われる防災委員会内にて試運転を行い非常時に備え操作方法を学ぶ
- ⑥ 業務継続計画の周知。防災委員が中心となり、災害時の対応を周知徹底するための研修や訓練を計画、実践する。

<研修計画>

年間研修計画の作成

- ① 法人内またはグループ法人内で企画する研修
・「BCP」「身体拘束の廃止と予防推進」年2回
「感染予防講習会」「虐待防止」「褥瘡予防」「事故防止」「防災」等
- ② 外部研修
・1階職員通用口の掲示板を充実させ、静岡県老人福祉施設協議会・静岡県社会福祉協議会・静岡県介護福祉士会等が企画する研修案内を掲示し自主的な参加を促していくと同時に、職員の適正に合わせた研修へも参加できるようにしていく。

＜広報活動＞

- ① Instagram を新規開設し約 1 年が経過。

全国約 1000 カ所の福祉施設からフォローをいただいている。

引き続き施設の取り組みや入居者様の生活の様子、空室状況等を外部へ発信していく

- ② 就職相談会等へ積極的に出向きケアハウスみどりの風・おかべを知ってもらう事、将来的に就職へ結び付く活動として繰り返し参加していく
- ③ 地域包括支援センターや藤枝、焼津の社会福祉協議会との連携を促進し、常時 5 名以上の待機者確保を目指す

＜志太会（老健ユニケア岡部・通所リハビリ・居宅事業所・訪問看護）との連携＞

- ① 通所会議：3 時間リハビリ・デイケアと連携し、利用者様の状態に合った事業所利用について提案する
- ② ICT 化推進連による利用者情報の共有強化
- ③ 企画会議の実施により職員の福利厚生を始めとした働く環境等の充実に努める

(2) ケアハウス事業計画

<実践目標と行動計画>

- 1 開設から10年以上が経過。
「ノーマライゼーション」の理念のもと多くの入居者を無事に看取ることができている。
一方、入居者の高齢化と認知症の進行により介護困難な例が散見されているがこの変化に対応できる人材育成や各専門職のスキル向上を目指していく。
- 2 入居者の生活を守りご家族へ安心を提供していく為に出来ることを模索し続ける。

<健康管理と苦痛の除去>

- ① 医師の定期診察・緊急時の往診・終末期の看取り医療
- ② 看護部の正確な病状把握、医師への報告
- ④ ミーティングでの医師との情報交換

<パーソンセンタードケアの実践>

- ① 全体会議の充実
- ② ケア会議の充実 施設ケアマネの進行によるケアプランに基づいた会議
- ③ 職員が2階3階全体に関わることでチームケアの実践を行いながら専門性を駆使した個別ケアの実践を目指していく

<リハビリの実践>

- ① 専門性が求められるリハビリを専門職が積極的に行い集団体操等の活動は介護職員が代行することで継続的な活動の場を入居者へ提供していく
- ② 職員全員が生活援助全てをリハビリと考え、実践する
- ④ 新規や退院時入居者受け入れの際、デイサービスのリハビリ職員と連携を図りリハビリの実践に関し情報を共有していく
- ⑤ 3階リハビリ室の使用方法を管理し通所利用者、ケアハウス入居者にご利用いただく
- ⑥ 部門長も参加する月1回のリハビリ会議、3人のリハビリ職で週1回行うリハミーティングの場を活用し情報の共有、部署を越えた連携に繋げていく。

<感染症対策>

- ① 行政発信の情報収集と、情報の正確さの見極め・対応への行動のスピード化
- ② 静岡県の情報に基づき面会や外出等の対応を柔軟に行い家族へ報告する。
- ③ 感染症マニュアルに沿って日頃から予防に努め感染者発生時には迅速に対応。マニュアルの更新を適宜確実に実施する
- ③ 職員の感染予防徹底と、施設に持ち込まない・入居者様に感染させないことを、継続して行い入居者様の生命を守る
- ④ 2階・3階共に18室を2ゾーンに分け9名単位で生活し、日頃から感染の拡大を防止する
感染の発症が認められた時、各関係への情報提供と施設での拡大防止への対応がスピードを持ち行えるよう危機管理を徹底する

(3) 通所介護事業計画

<実践目標と行動計画>

開所から13年目、移転前も合わせ21年の月日が経つ。この間、在宅高齢者の生活背景は明らかに変化したし、岡部地域においても独居・老々介護・遠距離介護などの世帯は増加している。

- ① 利用者・家族から「今、求められているもの」を常にキャッチし、更なる創意・工夫で柔軟に対応していく。
- ② 時代は変わっても「大切なもの」は守り続けながら、多くの皆様が安心して暮らせるよう三輪医院グループの一つとして役割を果たしていく。

「安定したサービス提供への取り組み」

- 1) 平均利用人数の目標を32名（土曜日含まず）とする。
- 2) 様々なニーズを受け入れ、より長く在宅生活が維持できるための工夫に努める。

「自立支援の理解と実践」

- 1) 入浴介助研修会を開催する。
- 2) 認知症事例検討会を継続的に開催する。
- 3) 中重度者ケア体制加算・個別機能訓練加算等、加算や総合事業についての理解を深める。

「2チーム制の充実」

- 1) 昨年度から始まった2チーム制の課題に向き合い、新しいデイサービスづくりに取り組む。
- 2) スタッフのチーム間交流を行い、スキルアップへと繋げていく。

「デジタル化の促進」

- 1) 実績管理のデジタル化を進め、業務の簡素化を目指す。
- 2) 介護記録と実績の連動化に取り組む。
- 3) デイサービスの紹介や魅力発信として、インスタグラムを継続していく。離れて暮らす家族にも安心を届けていく。